



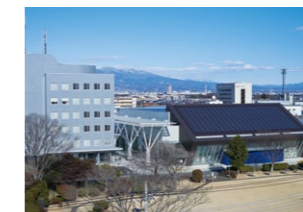
太陽光発電システムの効率を高めるため、30度傾斜した屋根にパネルが設置されている

ビエント高崎

VIENTO TAKASAKI

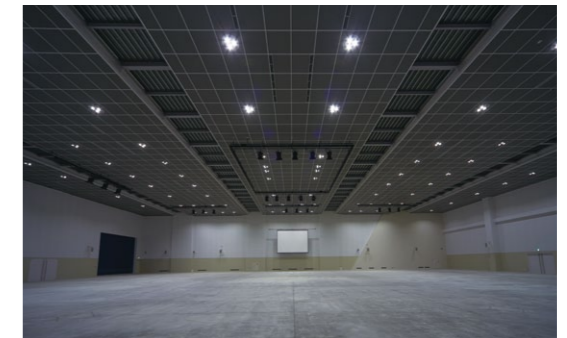
遠隔監視システムによって太陽光発電システムを運用・メンテナンス
1967年、約12万坪の敷地に高崎市内の卸商社約160社が集まって日本最初の卸商業団地として形成された高崎問屋街は、北関東の流通拠点としての地位を築いてきた。団地の完成と併せて建設され、さまざまなイベントが開催されてきた展示場を「新展示ホール」として再建。設計にあたっては、再生可能エネルギーの導入を初めとした高い環境性能が求められた。このため、展示ホールの一部屋根を傾斜させて巨大な太陽光発電パネルとなるように計画。同時に地域のランドマークとして躯体意匠も環境計画支援

VRを用いた検討が繰り返された。
合計250kWの太陽光発電システムは、安定した発電性能を発揮させるため、パナソニックのASP (Application Service Provider) サービスによって、遠隔監視されている。
本館には既設BEMSとしてWeLBAが導入されており、受電電力量と消費電力量を計測。これに加え、太陽光発電システムの発電データをパナソニックのサーバに送信することにより、遠隔監視サービスを実現している。また、消費電力量と発電量は、ASPサービス「エコサス」により、ユーザのPCや簡易サイネージを用いた「見える化」も可能となっている。



ビエント高崎

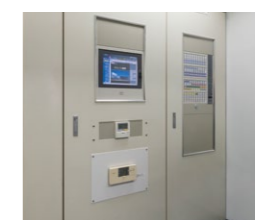
■ビエント高崎「新展示ホール」
所在地 群馬県高崎市問屋町
地主 高崎卸商社街協同組合
設計 株式会社石井設計
建築工事 冬木工業株式会社
電気工事 阿久澤電機株式会社
設備工事 熊井戸工業株式会社
P V 工事 株式会社鳥屋鋼鐵店
エンジニアリング / パナソニックESエンジニアリング株式会社
(PV、演出照明、吊物、BEMS)
竣工 / 2014年1月



コンベンション以外に各種資格試験会場にも使える照明環境を有した展示ホール



ASPサービス「エコサス」を利用した発電量の「見える化」サイネージ



本館の既設BA「WeLBA」



ネットワークカメラ監視システム



松本 修平氏
まつもとしゅうへい
高崎卸商社街協同組合
理事長

最先端の展示ホールが育む新たな活気に期待
高崎問屋街は、2005年に「日本まちづくり大賞」「まちづくり月間国土交通大臣表彰」を受賞。ビエント高崎は「人・物・情報・文化」の新たな交流拠点となっています。コンベンションだけでなく、試験会場からマーチングバンドの練習までできる、太陽光発電やLED照明などの先端設備を導入した展示ホールが活用され、北関東の交流拠点として活性化することを期待しています。

主な設備

- 太陽光発電システム HIT233 (250kW)
- 太陽光発電遠隔監視システム
- LED照明器具
- 演出用LED照明器具
- 音響システム
- ネットワークカメラシステム
- 空調機器
- デジタルサイネージ
- 電設備
- 火災報知設備